

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	鮭・鮎等稚魚放流事業			事業コード	1549
所属コード	132000	課等名	商工観光部観光課	係名	
課長名	村山 悦男	担当者名	菊池 史仁	内線番号	3726
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光交流の推進	コード	2
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 観光施設整備事業 (001-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	昭和 51 年度	
根拠法令等	なし			

(2) 事務事業の概要

あゆ、やまめ、さけ（委託）の稚魚放流、あゆ釣り教室の実施、岩手県内水面漁場管理委員会への指示要望等。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

市の中心部に清流が流れ、釣り人が糸を垂らす景観は、盛岡市民のみならず盛岡を訪れる方に安らぎを与える貴重な観光資源である。漁業権が設定されていない中津川に魚類を放流することで魚族の資源保護を図り、釣り愛好者及び市民の方にレジャーの場を提供して河川愛護思想の啓発を図ることにより、杜と水の都もりおかの都市イメージの高揚を図るとともに盛岡市内を流れる清流を全国にPRすることを目的としている。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

予算縮小による放流数の減少により、観光資源としての河川の価値が低下するおそれがある。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

市民及び観光客。

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 市民	万人	30	30	30	30	30
B 観光客入込数	万人	459	444	472	466	490
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

- ・ 鮭稚魚放流事業委託契約
（本町振興会へ委託）
- ・ 内水面漁場管理委員会指示要望
- ・ 稚あゆ、稚やまめの放流
- ・ あゆ釣り教室の開催

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 鮭稚魚放流数	尾	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
B あゆ稚魚等放流数	尾	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

- ・ 市を流れる河川の清流を全国にPRし、杜と水の都盛岡の都市イメージを図り、観光客の誘致促進に資する
- ・ 市民へのレジャーの場を提供し、魚族を通しての生命力の偉大さや資源保護、河川愛護の啓蒙を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 鮭稚魚放流イベント参加者数	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	人	400	400	400	400	400
B アユ釣り教室参加者数	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	人	70	70	70	70	70
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	955	955	955	955
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	955	955	955	955
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	100	100	100	100
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	400	400	400	400
計	トータルコスト A+B	千円	1,355	1,355	1,355	1,355
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

魚族の資源保護を図ることは、清流の流れる都市としてのイメージアップに資することから、観光客の誘致促進につながる。

② 市の関与の妥当性

漁業権が設定されていない中津川に置ける魚族資源の保護は、杜と水の都盛岡の都市イメージ向上のために市が行う必要がある。

③ 対象の妥当性

市民・観光客を対象としているものであり、現状のままで妥当である。

④ 廃止・休止の影響

止・休止することにより、魚族資源が減少し、観光資源としての河川の価値が低下するおそれがある。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

水系に合った丈夫な稚魚を放流することや放流数を増やすことにより成果が向上する余地がある。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

事業費の削減は稚魚の放流数の減少に直結することから、成果が損なわれることとなる。また、あゆ・やまめの放流やあゆ釣り教室は直営で行っているが、事務は稚魚等の購入、広報事務、関係団体との連絡調整等に限定されている。実際のイベントでは、関係団体のボランティア

による協力を得て行っていることから、人件費削減の余地はない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

岩手県釣り団体協議会と、今後の事業のあり方（放流数、放流形態）等について協議し、効果的な魚族資源保護を図る。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

予算の縮小等により放流数が減少することが想定される。関係団体からの要望と市の財政状況を勘案した上で予算の調整を行うとともに、関係団体の理解、協力を得られるよう連携を図る。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

釣り協議会などボランティアの協力を得ながら、限られた予算で効果的な事業展開を図る。観光資源としての事業となっているが、魚族資源は水産業の振興であることから担当課と共同実施の検討も行う必要がある。